

コロナ禍における子どもたちの経験

校長 相川 保 敏



夏休みは、どのように過ごされましたか。3年ぶりに「行動制限」がなく、日本各地でこれまで中止されていた様々なイベントが行われました。

多くのイベントや活動、観光等をされたご家庭も多いと思います。

本校も夏休みの初めに、5・6年生の2泊3日の校外学習を「3年ぶり」に実施いたしました。7月に入り感染者数が徐々に増加する傾向がみられ大変悩みましたが、国や県からの行動制限がなされなかったこと、名古屋市立小学校の野外宿泊学習が予定通り実施されること、6年生は4年生・5年生の2年間、宿泊伴う校外学習を経験していないことの3点から実施の判断をいたしました。

6年生は7月19～21日に山梨県で「大泉高原の生活」を行いました。私は6年生に付き添いました。滝沢牧場でのアイスクリーム作り、富士見パノラマリゾートでの散策、ブルーベリー明野でのブルーベリー狩り、星空の観察など、予定していた活動をすべて行うことができました。黙食の徹底、活動ごとの手指の消毒、こまめな換気など、感染対策をしながらの活動でしたが、友達と学校では味わえない活動をする姿は生き生きとしており、見ているだけで子どもたちの楽しさが伝わってきました。

5年生は6年生と同日に琵琶湖湖畔で「イングリッシュキャンプ」を実施しました。1日目は彦根城や琵琶湖博物館の見学、2日目はネイティブの方々とカレー作り、3種類のプログラム、キャンプファイヤーなどを行いました。最終日は、キーホルダーづくり、野菜収穫とバーベキューを体験しました。感染対策を行

いながら、活動的な3日間を友達と楽しく過ごしたようです。一人ひとりかけがえのない思い出が作られたことと思います。

しかしながら、体調を崩す子もみられ、関係の皆様にはご心配をおかけすることもありました。出発の2週間前から体調管理を行ってきましたが、コロナ禍における宿泊的行事の難しさ、大変さを実感いたしました。

4年生は、次の週の27日から1泊2日の「郡上の生活」に出かける予定でしたが、愛知県のコロナウイルス感染者数が、高学年の出発した前日の18日に比べ、帰名した21日には1万人以上も増えたこと、宿泊に際してはどうしても同じ空間で過ごす時間が長くなってしまふことから、日帰りとするに変更いたしました。

感染リスクのある活動はやめるという選択もありますが、かけがえのない友達との思い出をつくるためには多少のリスクを背負うという選択もあります。社会がコロナの感染よりも経済活動を優先していく中で、学校教育も子どもたちの活動をどこまで優先していくのか、本当に悩ましいところです。

さて、9月の生活目標は「マナーについて考えよう」です。6年生の校外学習の最終日、宿泊先のホテルの利用客の方から声をかけられました。子どもたちと一緒にエレベータを利用した際、礼儀正しく、他の利用者を配慮した行動が素晴らしいとお褒めの言葉をいただきました。梶山小の子らしい行動が学校外でもできていることを大変誇らしく感じました。相手に配慮した行動こそがマナーだと思います。6年生が他の学年にきっと良い影響を与えてくれるものと期待しています。